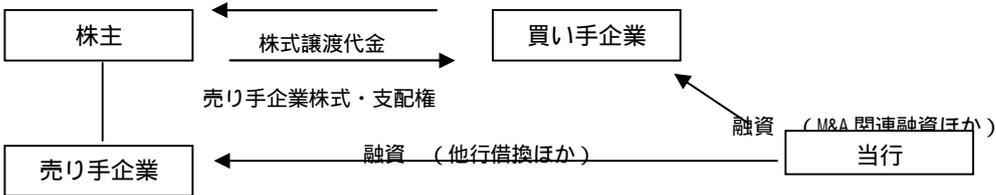


銀行名	山形銀行
タイトル	事業承継（事業再生目線のM&A アドバイザリー業務）
取組み内容	<p>【経緯】 売り手企業概要 [業種] サービス業 [業績] 売上 200M 未満 赤字計上 買い手企業概要 [業種] サービス業 [業績] 売上 1,500M 未満 利益計上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当店にて売り手企業から事業再生目線での支援相談あり。 ・ 本部協働で事業性等精査した結果、内部事情から自主再生が困難であることが判明。 ・ 当行より事業再生目線での M&A 提案。同業大手の買収ニーズと合致し M&A 成約。 <p>【取組み成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応スキーム：株式譲渡（100%） ・ 売り手企業のメリット 買い手企業の傘下に入り、逼迫していた資金繰りから脱却、倒産が回避された。 オーナー家は自己破産から免れ、借入金の連帯保証、担保提供も解消された。 従業員の雇用ならびに、取引先との関係が維持された。 ・ 買い手企業のメリット 自社サービスの幅が広がり、ブランド力向上に寄与する。 自社ノウハウの活用により、売り手企業において早期に収益改善が見込まれる。 同業の強固な反対により自社にて新規出店が困難な中、M&A により可能となった。  <pre> graph TD Shareholders[株主] -- "株式譲渡代金" --> Buyer[買い手企業] Shareholders -- "売り手企業株式・支配権" --> Buyer Bank[当行] -- "融資 (M&A 関連融資ほか)" --> Buyer Bank -- "融資 (他行借換ほか)" --> Seller[売り手企業] </pre>

銀行名	山形銀行
タイトル	地域ブランドの向上につながる地元老舗企業の事業構造改革支援
取組み内容	<p>【動機・経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取引先 A 社は、昭和 10 年の創業以降、独自の手織り技術を活かした高級絨毯を生産し、迎賓館やパチカン宮殿にも納入してきた老舗企業。当社は織物が盛んな地域に立地し、当地産業を代表する企業のひとつ。 ・ 受注主体が法人のため、景気変動や企業の設備動向の影響を受けやすく、安定した収益を確保できず業績が低迷。当社の業績不振は地域産業衰退にもつながることから、メイン行として経営改善支援に取り組んだ。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当社は、以前より法人主体の受注から個人向け戦略への移行を模索。個人向けのブランドを地元有名デザイナーと立ち上げた中、大手高級家具店から評価を得て、個人向け販売（ホームユース）が徐々に展開しつつあった。これに着目し、ホームユースを事業の柱とする事業構造改革で、将来的な成長戦略を図ることを当社と検討。 ・ 正確な事業の検証および事業改革の着実な進展を図るため、中小企業再生支援協議会関与のもと外部専門家を導入。 ・ 事業 DD により、ホームユースは法人受注と比較し、受注の波が小さく採算性が高いことを確認。予定通り、ホームユースへの事業構造改革を骨子とする経営改善計画を平成 27 年 3 月に策定。 <p>【当該取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目指すべき経営方針、戦略が明確となり、経営陣や社員の経営改善に取り組む意識が高まっている。当社成長により地域産業のけん引となることも期待される。 ・ ホームユースブランドの浸透を早めるため、県内ものづくり企業数社とともに一般および観光客向けに工場見学できる企画を立ち上げた。当社製品の情報発信に加え、地域産業の PR につながることも期待される。 ・ 毎月のモニタリング会議により計画の進捗管理を実施。計画 1 期目前半は計画比プラスで推移し、業績の面でも順調にスタートしている。

銀行名	山形銀行																																																
タイトル	農商工連携による地域ブランド商品の開発支援																																																
取組み内容	<p>【動機・取組み内容】</p> <p>1. 山形市からの受託事業として、山形を代表する素材を活用したお土産の商品を開発から製造、販売までをコーディネート。</p> <p>2. 山形の地域資源である「啓翁桜」の芽、花びらから採取した酵母と山形県産米を使用し、お祝い事や宴席で使用される乾杯酒（地酒）を、山形市内3つの酒蔵と共同で開発。</p> <p style="padding-left: 40px;">冬に咲く桜として、正月等の冬の祝い事やイベント等に使用される。山形県が栽培面積、生産量ともに全国1位。</p> <p>3. 開発段階では山形県内の大学、東北芸術工科大学と連携し、商品規格、商品名を決定。また、技術協力として山形県の外郭団体である山形工業技術センターと連携し、啓翁桜酵母を培養。産学官金一体となり、オール山形の地域ブランド商品を開発。</p> <p style="text-align: center;">商品企画書</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">会 社</th> <th style="width: 30%;">A 社</th> <th style="width: 30%;">B 社</th> <th style="width: 25%;">C 社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>商品名</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">桜 三 蔵 (さくらさくら)</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">特別純米酒</td> </tr> <tr> <td>原 料 米</td> <td style="text-align: center;">県産 出羽燦々</td> <td style="text-align: center;">県産 出羽の里</td> <td style="text-align: center;">県産 つや姫</td> </tr> <tr> <td>精米歩合</td> <td style="text-align: center;">60%</td> <td style="text-align: center;">60%</td> <td style="text-align: center;">55%</td> </tr> <tr> <td>特 徴</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">「啓翁桜」の酵母菌をブレンドして使用</td> </tr> <tr> <td>特 徴</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">山形市内の酒蔵3蔵が共同した乾杯酒造り</td> </tr> <tr> <td>特 徴</td> <td style="text-align: center;">無色透明（辛口）</td> <td style="text-align: center;">白色薄にごり（やや甘）</td> <td style="text-align: center;">白色薄にごり（やや甘）</td> </tr> <tr> <td>瓶の種類</td> <td colspan="3" style="text-align: center;">レギュラー瓶スクリューボトルタイプ</td> </tr> <tr> <td>瓶 の 色</td> <td style="text-align: center;">緑フロスト</td> <td style="text-align: center;">水色透明</td> <td style="text-align: center;">透明</td> </tr> <tr> <td>アルコール度数</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">15%</td> <td style="text-align: center;">16%</td> </tr> <tr> <td>コンセプト</td> <td colspan="3"> 啓翁桜で山形の冬に乾杯 山形が全国の約8割の生産量を占める冬の桜「啓翁桜」 原料には山形で生産された米を使用 山形市を代表するA社・B社・C社の3つの酒蔵が共同で商品を開発 めでたいとき・うれしいときなどに、お祝い酒として「桜三蔵」で乾杯 してみませんか。 </td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 販売は、啓翁桜のシーズンである12月～3月までの季節限定とし、個別商品のブランド力を向上。また、山形県内外で開催される啓翁桜のキャンペーンにて同商品を活用するとともに、山形県の乾杯条例（乾杯は県産酒で）を活用し、ホテルや飲食店に対する販売を強化。</p> <p>5. 3つの酒蔵では今後も山形市のお土産の顔として製造、販売していく予定。</p>	会 社	A 社	B 社	C 社	商品名	桜 三 蔵 (さくらさくら)			種 類	特別純米酒			原 料 米	県産 出羽燦々	県産 出羽の里	県産 つや姫	精米歩合	60%	60%	55%	特 徴	「啓翁桜」の酵母菌をブレンドして使用			特 徴	山形市内の酒蔵3蔵が共同した乾杯酒造り			特 徴	無色透明（辛口）	白色薄にごり（やや甘）	白色薄にごり（やや甘）	瓶の種類	レギュラー瓶スクリューボトルタイプ			瓶 の 色	緑フロスト	水色透明	透明	アルコール度数	15%		16%	コンセプト	啓翁桜で山形の冬に乾杯 山形が全国の約8割の生産量を占める冬の桜「啓翁桜」 原料には山形で生産された米を使用 山形市を代表するA社・B社・C社の3つの酒蔵が共同で商品を開発 めでたいとき・うれしいときなどに、お祝い酒として「桜三蔵」で乾杯 してみませんか。		
会 社	A 社	B 社	C 社																																														
商品名	桜 三 蔵 (さくらさくら)																																																
種 類	特別純米酒																																																
原 料 米	県産 出羽燦々	県産 出羽の里	県産 つや姫																																														
精米歩合	60%	60%	55%																																														
特 徴	「啓翁桜」の酵母菌をブレンドして使用																																																
特 徴	山形市内の酒蔵3蔵が共同した乾杯酒造り																																																
特 徴	無色透明（辛口）	白色薄にごり（やや甘）	白色薄にごり（やや甘）																																														
瓶の種類	レギュラー瓶スクリューボトルタイプ																																																
瓶 の 色	緑フロスト	水色透明	透明																																														
アルコール度数	15%		16%																																														
コンセプト	啓翁桜で山形の冬に乾杯 山形が全国の約8割の生産量を占める冬の桜「啓翁桜」 原料には山形で生産された米を使用 山形市を代表するA社・B社・C社の3つの酒蔵が共同で商品を開発 めでたいとき・うれしいときなどに、お祝い酒として「桜三蔵」で乾杯 してみませんか。																																																

銀行名	山形銀行
タイトル	やまがた地域成長ファンド等を活用したベンチャー企業支援
取組み内容	<p>【動機、経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行は10年後の山形県を見据え、「山形成長戦略プロジェクト」を立ち上げた。縮小して行く地方経済に歯止めをかけるためには、県内における開発型企業の支援は欠かせないものと考えている。 ・ 具体的には、山形県鶴岡市には慶應義塾大学先端生命科学研究所、米沢市には山形大学工学部があり、これらの研究シーズを活かし、新しい産業が次々と産まれる仕組み「インキュベーションパーク」の構築を目指し、行政、大学と連携を図り、活動を展開している。 ・ 山形県を成長に導く企業に対してはリスクマネーが不可欠と考え、野村リサーチアンドアドバイザー株式会社と「やまがた地域成長ファンド」を設立した。 <p>【取組み内容】</p> <p>鶴岡市の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山形県鶴岡市にある慶應義塾大学先端生命科学研究所と、大学発ベンチャー企業であるS社やH社を核とし、山形県に産業集積を図るべく行政とも連携した活動を展開している。 ・ 新素材開発企業S社に対し「やまがた地域成長ファンド」より、一昨年1億円、昨年1億円の投資を実行。また、H社（過年度出資済）は、一昨年12月に上場を果たした。 ・ このようなベンチャー企業の立ち上がりを受け、研究所周辺14haの開発事業が進められている。当行はこの動きを「地方創生」のモデルケースと考え、他金融機関と連携した支援を模索。27年6月にきらやか銀行、鶴岡信用金庫、大和PIパートナーズ株式会社と「山形創生ファンド」を立ち上げ、開発会社に対し優先株の形態で出資を行った（当行出資額、3億円）。 <p>米沢市の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山形県米沢市にある山形大学工学部には、高分子・有機エレクトロニクスを中心に研究シーズが多く、これらを活用して産業集積を図るべく、大学、行政とも連携した活動を展開している。 ・ 山形大学発ベンチャー企業のA社はアーリーステージにあるが、大型の研究開発型助成金を獲得するなど将来性もあり、「やまがた地域成長ファンド」の2号案件として、30百万円の投資を行った。 <p>上記以外にも、大学のシーズを活用したベンチャー企業、大手企業からスピンオフした技術者によるベンチャー企業等が立ち上がりつつあり、調査検討を行っている段階。</p> <p>【取引先にとっての効果】</p> <p>鶴岡市の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当ファンドからの投資を含め、多額の資金調達ができた当社は、計画通りパイロット工場、次いでマザー工場を建設し、事業化に向け順調に開発を進めている。 ・ 研究所周辺14haの開発計画も順調に進んでおり、産業集積が図られる見通し。 <p>米沢市の事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからも多額の研究開発費が必要なA社は、当ファンドからの出資、大型助成金の採択により、信用度が高まっている。開発は順調に進んでおり、通常の融資による資金供給も実施している。今後も、新たな投資マネーの調達などにより、開発のスピードを上げていく。

銀行名	山形銀行
タイトル	地元資源（ワイン用ぶどう）に着目した地域経済活性化への取組み
取組み内容	<p>【動機、経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当行では「地域経済の活性化なくして地域金融機関の発展はない」という認識のもと、「山形成長戦略推進チーム」を立ち上げ、地域資源を活用した新産業の創出等に主体的に取り組んでいる。 ・ 上記活動の一環として、上山市と「観光に関する連携協定」を締結し、「上山型温泉クアオルト構想」の立ち上げに協力し、「ヘルスツーリズム」を推進する活動を行っている。 ・ 活動展開のなかで、地域資源「ワイン用ぶどう」に着目、地元ワイナリーはもちろん、全国規模の大手ワイナリーが、地区内のぶどうを使って醸造しているという事実を地域活性化につなげられないかと考えた。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームは、地元ワイナリー、大手ワイナリー、ぶどう生産者、自治体、市内商工関係者等からなる「かみのやまワインプロジェクト」を立ち上げ、「原料生産・醸造・販売・流通・観光」等における問題点を指摘しつつ、地域資源を活用した地域経済活性化について議論した。 ・ 市内においても、地域資源「ワイン用ぶどう」の素晴らしさが知られていたわけではないこともあり、25年11月、市民向けのセミナーを実施したところ、大きな反響があった。 ・ 上山市も、この動きに呼応し「かみのやまワインで乾杯」条例を制定している。 <p>プロジェクトでは、「かみのやまワイン」の定義を、「上山で醸造したワインと上山産のぶどうで醸造したワインとする。」としており、地元と大手が連携して地域資源を推し進める素地を作っている。市の条例でも、この定義が採用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成26年7月には、上山城近辺に県内外から10のワイナリーを集めて、ワインイベント「山形ワインバル2014」を開催、2,200人の来場者がワインを楽しんだ。 <p>【広域展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山形県には12のワイナリー（全国4位、東北1位）があることから、この取り組みを、山形県全体の取り組みにできないかと考え、山形県、県ワイン酒造組合と連携。27年5月、ワインイベント「山形ヴァンダジェ」（ヴァン=フランス語で酒、ダジェ=山形弁で「ですよ」の合成語）を開催した。 ・ このイベントでは、前半部で農家の高齢化等の原因で不足する「ワイン用ぶどう」への生産参入を呼びかけるセミナーを実施、後半部では5,000人を超える来場者を迎え、県産ワインを楽しんだ。 ・ ワインには、健康的なイメージがあり、女性の人気も高く、飲食・観光業等への波及効果も高い。当行では、原料から提供の段階まで、幅広い経済活性化効果があると考えており、主体的に支援していく。

銀行名	山形銀行
タイトル	森林整備を主体とした環境保全活動への取り組み事例
取り組み内容	<p>1. 自治体や地元信用金庫等との連携による森づくり活動の展開 2. 間伐委託事業によるカーボンオフセットへの取り組み</p> <p>【経緯、動機】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県は県土の約70%が森林（面積は都道府県で8番目）であり、県民の貴重な水源としての役割を担うとともに、県内全市町村に存在する温泉や、四季の鮮やかな自然景観など、多くの恵みをもたらしてきた。 山形県では、かねてより国の制度などを活用し、企業の森林整備活動に対する支援を行ってきたが、平成22年度から独自の支援事業として「やまがた絆の森プロジェクト」を実施している。 当行では平成22年度に山形県や地元信用金庫などとの連携により、「やまがた絆の森協定」を締結。「ぐるっと花笠の森」活動として、県内の森林整備に取り組んでいる。 また、県が創設したCO2吸収量の認証制度を活用し、当行の本店ビルが年間で排出するCO2量約1,200トンのカーボンオフセットへ向けた取り組みも同時に進めている。 <p>【取り組み実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絆の森協定にもとづき、県内各4地域において、年1～2回の植樹や下刈り、歩道整備、森林教育などの森づくり活動に取り組んでいる。 5年間の協定期間（平成22年度～26年度）中には、2,200名を越える役職員や地域住民が活動に参加、身近な環境保全活動として根付いている。 カーボンオフセット事業は、蔵王国定公園等における間伐委託事業を主体としており、「やまがた絆の森協定書（やまぎん蔵王国定公園の森）」を締結し、事業進行中である。 当行が120周年を迎える平成28年度に7年間の事業が完了し、カーボンオフセットが実現する見込みである。 <p>【当該取り組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絆の森協定は5年間の協定期間満了に伴い、平成27年度に期間を5年間延長しており、取り組みを継続していく。 上記環境活動への取り組みは、役職員の環境保全への意識向上はもちろん、地域住民との交流を通じ、円滑な地域社会の形成に大きく寄与している。 森づくり活動やカーボンオフセット事業を通じ、日常業務においても、事務用品の再利用や節電への取り組みなど、CO2削減や環境保全に向けた役職員の意識高揚が着実に図られている。